

## 第36回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成27年2月2日（月） 13：00－14：30
2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員
  - (2) 政府側  
松本内閣府大臣政務官、阪本内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官
4. 議事要旨

冒頭、松本内閣府大臣政務官から以下のような挨拶があった。

松本内閣府大臣政務官：

- ・ 去る2月1日に、H-IIA ロケット27号機によって情報収集衛星レーダ予備機が無事打ち上がった。今般の成功により、我が国の基幹ロケットの打ち上げは26回連続の成功となった。関係者の努力の賜物であり、非常に喜ばしい成果である。
- ・ 私も打ち上げ視察のために、去る1月30日に種子島を訪問した。残念ながら打ち上げは延期になり、打ち上げを目の当たりにすることはできなかったが、種子島宇宙センター等を視察し、打ち上げの現場に来ていた宇宙産業の関係者や宇宙実務に関わる関係者から話を伺った。
- ・ 宇宙産業の関係者から、今回の宇宙基本計画は投資の予見可能性を高めるものだとの声を聞き、計画を着実に実行していかなければならないとの決意を新たにしました。
- ・ したがって、工程表を宇宙開発戦略本部で毎年改訂し、各施策を一層具体化し、実行していく必要がある。
- ・ 今回は前回に引き続き、工程表の改訂の進め方の具体的なあり方について、より踏み込んでご審議していただくものと承知しており、極めて重要なものだと考えている。
- ・ 委員の皆様には、本日も精力的なご審議をお願いしたい。

### (1) 今後の宇宙政策委員会の検討体制について（報告）

今後の宇宙政策委員会の検討体制について、資料1に基づき事務局より報告を行った。

### (2) 平成26年度補正及び平成27年度の宇宙関係予算案について（報告）

平成26年度補正予算案及び平成27年度予算案の宇宙関係予算について、資料2及び資料3に基づき事務局より報告を行った。

### (3) 宇宙基本計画工程表の改訂の進め方について

宇宙基本計画工程表の改訂の進め方について、資料4及び資料5に基づき事務局から説明があり、その後、これについて審議を行った。審議の結果、資料4の「各工程表と関連施策等について(案)」については、一部修正の上、委員会として了承された。なお、修正については委員長一任となった。

主な意見は以下の通り。

- ・各施策やプロジェクトについて、宇宙基本計画本文の記述に即したアウトカムを意識して進捗管理を行うことが大変重要。同時に、開発サイドとしては、利用サイドが所定のアウトカムを出せるように、きっちりと衛星開発を完了させるというアウトプットを出すことが大事。この二面からの評価をしていくことが重要。
- ・まずは、MDA や即応型小型などコンセプトが未確定のものについては各省で検討の場を設けることが大事。その際、アウトカムとアウトプットを同時並行で議論していくことも有益ではないか。
- ・衛星等のプロジェクトの評価に当たっては、衛星の開発が完了してしまうまで待たず、随時改善のためのフィードバックをしていくことが重要。
- ・宇宙安全保障部会と宇宙民生利用部会、宇宙産業・科学技術基盤部会間の分担については、現在運用中であつたり実用に近い施策・プロジェクトは宇宙安全保障部会と宇宙民生利用部会、より長いスパンで見べき施策・プロジェクトは宇宙産業・科学技術基盤部会において審議することとなるのではないか。また、測位衛星の信号への妨害対応策については、宇宙産業・科学技術基盤部会のみならず、安全保障部会においても審議すべきではないか。
- ・安全保障に関する宇宙開発利用施策やプロジェクトの目標設定は、安全保障政策の目的に関連するため、関係者と慎重に議論をして進めていくべき。

以上